

返信FAX 078-393-1820 (兵庫県保険医協会気付)

市民にあたたかい神戸をつくる医師・歯科医師の会 行き

- 「岡崎史典氏とともに神戸市の医療を守り充実させるアピール」に賛同する
※FAXニュースなどでの氏名の公表について…(可 不可)
- 支援グッズ(チラシ等)を送ってほしい(枚)
- 募金をする(募金をいただける先生には、事務局よりご連絡差し上げます)

お名前 _____

医療機関名 _____

ご連絡先 _____

ご意見、ご感想などぜひご記入ください。

兵庫県保険医協会 神戸支部ニュース

349号

2021年10月25日付

発行 兵庫県保険医協会神戸支部
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F
兵庫県保険医協会 TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

10・31 神戸市長選挙 岡崎史典氏の支持推薦決定 医療・社会保障充実の市政へ転換を



岡崎史典氏(左手前)と協会・神戸支部役員が懇談し、政策協定を結んだ

医療・社会保障切捨て、大型開発優先の神戸市政を転換しよう——。神戸支部と協会は10月31日投開票の神戸市長選挙にあたって、9月16日の支部幹事会と9月25日の理事会で、市長選挙への立候補表明を行っている「神戸・市民要求を実現する会」の事務局長である岡崎史典氏と政策協定を行った上で、支持推薦することを承認。10月2日に岡崎氏本人と「2021年神戸市長選挙にあたって開業保険医師・歯科医師の重点要求(案)」(兵庫保険医新聞2021年10月5日号掲載)の全項目について合意し、支持推薦を行った。

神戸支部は9月16日の幹事会で、「2021年神戸市長選挙にあたって開業保険医師・歯科医師の重点要求(案)」を討議し、現在の久元喜造市政について、「不要不急の三宮再開発と、人口の少ない市域の行政サービスを切り捨てる神戸市都市空間向上計画を強引に進める一方で、公約に掲げていた『中学生以下の医療費無料』を撤回し、国の方針に従い国保料の独自控除や法定外繰り入れを廃止してきた」と批判。今回の市長選挙を要求実現の機会として位置づけることを確認した。

(2面へつづく)



市民にあたたかい神戸をつくる会
共同代表 **岡崎史典氏**

【おかげさ ぶみのり】

1968年生まれ。兵庫県労働組合総連合事務局次長。「神戸・市民要求を実現する会」などの市民団体の事務局長として神戸市政にかかわる運動の先頭に立つ

(1面のつづき)

その上で、今回「市民にあたたかい神戸をつくる会」が擁立した無所属候補である岡崎史典氏は、久元市政の転換をめざすとともに、「神戸・市民要求を実現する会」や「原発をなくし自然エネルギーを推進する兵庫の会」の事務局長を務めるなど、これまで協会や神戸支部が参加する市民運動とともに進めてきた経験から、岡崎氏と懇談し、政策協定の締結を行った上で、支持・推薦を決定することを確認した。

この神戸支部の決定を受け、9月25日の理事会では、歴史的経過も踏まえて「神戸市は兵庫県と同等の重みをもつ政令指定都市であるので、神戸市長選挙において特定の候補を協会本体が支持推薦することができる」ことを確認。神戸支部と同様、政策協定の締結を行った上で、支持・推薦を決定することを確認した。

これを受け、10月2日、岡崎氏に「2021年神戸市長選挙にあたって開業保険医師・歯科医師の重点要求(案)」を示して、政策協定について協議した。協会からは、「市内で病院小児科が次々と閉鎖されていることについて、各病院への支援を強めてほしい」「歯科分野

では学校健診で指摘を受けたにも関わらず、歯科の矯正治療が保険適用されていない。子どもの口腔の発達が親の経済力で左右されかねない。行政として支援を行うべきだ」などと訴えた。岡崎氏は学校法人の理事を務めた経験などを紹介し、「ご指摘はその通り。現在の久元市長は、選挙公約に掲げていた『中学生以下の医療費無料』を撤回し、『子どもにお金をかけたくない・・・人は、明石市でも三木市でも引っ越されたらよい』などと強弁するなど、市民の子育てを全く応援する気がない。こうした市政を転換したい」と決意を述べるとともに、新型コロナ禍対策についても久元市長の民間企業や市民ボランティア丸投げのワクチン行政などを批判し、「開業保険医師・歯科医師の重点要求(案)」を医療分野政策の中心に位置付けてたたかうことを強調し、政策協定に調印した。

選挙活動は「有志の会」で

方針では、協会として支持推薦を行うものの、個々の会員の思想・信条・政治活動の自由を保障する立場から、選挙活動は協会とは別に「有志の会」で行うとしており、有志の会への賛同を呼びかけます。岡崎史典氏を支援する活動にご協力いただける先生は、同会が発表した「岡崎史典氏とともに神戸市の医療を守り充実させるアピール」(3面)にご賛同いただくとともに、物心両面でのご協力を賜りたくお願い申し上げます。(返信 FAX は 4 面)

岡崎史典氏とともに神戸市の医療を守り充実させるアピール

神戸市内すべての医師・歯科医師の皆さん。

10月31日に行われる神戸市長選挙は、新型コロナウイルス感染症対策はもとより今後の神戸市の医療提供体制にとっても極めて重要な選挙です。

新型コロナウイルス感染症が猛威を奮ったこの1年間にあっても、久元喜造市政の下で、政府や県とともに、市内2つの中核病院で68床の病床削減が行われました。それだけでなく、六甲病院の民間譲渡や、済生会病院と三田市民病院との統合協議も進められています。病床逼迫が叫ばれる中、粛々と病床削減や病院統合を行う市政を認めるわけにはいきません。

また、神戸市では新型コロナウイルスワクチン接種をめぐる様々な混乱が生じました。この背景には、予約システムやワクチンの配送を民間企業に丸投げし、予約窓口の対応を学生ボランティアにさせなければならないほどの極端な市職員削減がありました。にもかかわらず久元市政はこれを改めるところか、さらに「行財政改革2025」を強行し、750人の職員を削減するとしており、今年度も100人以上の職員を削減しました。

まさに行政としての責任を放棄するもので、とても新型コロナ禍から市民の命と健康を守る政治を進めているとはいえません。

また、新型コロナウイルス感染症対策だけでなく、福祉医療の充実に向ける姿勢も問題です。久元市長は、選挙公約に掲げていた「中学生以下の医療費無料」を撤回し、「子どもにお金をかけたくない・・・人は、明石市でも三木市でも引っ越されたらよい」と強弁しています。そればかりでなく、国保料の独自控除や法定外繰り入れを廃止し、市民負担を増やし福祉医療費を抑制してきました。

一方で、大型開発は聖域化し巨額の予算を投入しています。三宮駅前開発や市役所・中央区役所の建替、ウォーターフロント地区再開発などに21年度だけで300億円以上を投じています。

新型コロナ禍で今ほど、行政の医療・福祉政策が問われている時はありません。従来大型開発優先、福祉・医療切捨ての久元市政を抜本的に転換することが必要です。

私たちも参加する市民団体「神戸・市民要求を実現する会」事務局長の岡崎史典氏は「保健所の復活」「病院統廃合や病床削減のストップ」「国保料・介護保険料の引き下げ」「高校卒業まで医療費完全無料化」などを掲げています。

「住民福祉の増進」という地方自治体の本来の役割に向けるこれまでの神戸市政を、市民にあたたかい市政に転換するため、岡崎史典氏に市内すべての医師・歯科医師の支持を集めましょう。

2021年10月7日

市民にあたたかい神戸をつくる医師・歯科医師の会

上記アピールにご賛同いただける方は、4面の返信 FAX 用紙でご賛同、メッセージをお寄せいただきますようお願いいたします。